

平成 22 年 6 月 1 日

平和で豊かな世界の実現のために

現在も世界各地には、飢餓や病気、紛争、気候変動や地震などの自然災害に苦しみ、人間としての尊厳を保てないような苦しい生活を営んでいる人々が数多くいるという厳しい現実があります。また、世界経済・金融危機による途上国の脆弱層への影響はいまだ深刻です。特にアフリカのサブ・サハラ地域を中心に、ミレニアム開発目標（MDGs, The Millennium Development Goals）の達成が危ぶまれています。

こうした中、我が国は、世界の人々の苦境を我々自身の問題として受け止め、人間の安全保障の実現に向け、開発途上国の支援に取り組んでいくことが重要であると考えています。こうした考えの下、昨年の新政権誕生以降、日本は国際社会が抱える課題に対してリーダーシップを発揮し、新たなアフガニスタン・パキスタン支援、気候変動分野における「鳩山イニシアティブ」、ハイチ地震に対する緊急人道支援など、様々な取組を行ってきました。

我が国をはじめ、国際社会は積極的な国際協力を行ってきましたが、MDGs の達成等、世界の開発需要に対応するためにはより幅広い開発資金の動員が必要です。経済・金融危機の影響がいまだ残る現在の厳しい状況だからこそ、貧困や気候変動といった課題に対応するために、新しい財源、つまり、国際連帯税等の革新的資金調達メカニズムを促進する必要があります。「開発のための革新的資金調達に関するリーディング・グループ」（LG）は、2006 年の設立以来、国際社会における革新的資金調達に関する国際的議論をリードしてきました。LG のメンバーは年々増え、現在は 60 か国に達しています。LG が一石を投じたことにより、国際社会における革新的資金調達をめぐる動きが、大きな波となりつつあることを実感しています。しかし、革新的資金調達メカニズムの本格的普及のためには、この問題に対する国際的関心がより大きく喚起され、より幅広い国々が積極的に関与する必要があります。はじめの規模は小さくても、議論を尽くして全世界的な取組として立ち上げ、徐々に大きく育てるアプローチも重要でしょう。

今回、チリの後任として我が国が LG 議長国を務めることとなったことは、各メンバーの我が国に対する期待と信頼の現れであり、大変光栄に思います。議長国を引き受けるにあたり、我が国としては、革新的資金調達に関する内外の関心を一層喚起し、その発展に貢献することにより、議長国としての務めをしっかりと果たしていきたいと思えます。我が国がホストする次回 LG 総会にむけて、このような姿勢で取り組んで参ります